



2015年を振り返る ~2016年を展望するために~

早いもので、今年も後1か月となりました。2015年は会員の皆さんにとってどのような年だったでしょうか？今回は年初にエコノミスト誌が示した今年の経済予測と、実際を見比べながら来る2016年を展望してみたいと思います。毎年年末になりますと、エコノミスト各誌が翌年の経済環境の予測特集を組みます。今回は週刊ダイヤモンド誌「2015総予測」を見ながら、実際の経済環境の推移を振り返ってみたいと思います。当たったにせよ、外れたにせよ、エコノミストの「予測」と違う事態にこそ、今後の経済環境をより正しく予測する鍵があると思います。

海外ビジネス特集 ~モンゴル・ウランバートルを訪ねて~



海外ビジネス研究会
視察レポート
~世界に広がる理念型経営~
2015年を振り返る
~2016年を展望するために~



12
2015 December

DoYu Now
来年2016年は、8月にブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催されます。南米では初めての開催ですが、南米、8月と聞くといつ灼熱の中のオリンピックをイメージしてしまっています。しかし実際にはリオデジャネイロは南半球なので、日本とは逆に8月が年間で一番気温が低く最高気温が25度程度だそうです。夏のオリンピックには最適な環境なのですね。地球は広いと改めて思います。また、活躍が期待される日本選手も、体操の内村選手、テニスの錦織選手はじめ、大津出身のフェンシング大田選手、柔道、レスリングなど多彩でワクワクします。その中でも陸上短距離のサニブラウン・ハキーム選手にも注目です。2015年の北京世界陸上で躍注目された高校生ですが、元ガイナーラのサッカー選手のお父さんと、日本人の陸上選手のお母さんの間に生まれた、生まれも育ちも日本ネイティブだそうです。和製ポルトの呼び声も高く、ぜひ実力を発揮していただきたいと思います。先日のラグビーワールドカップの日本チームも1/3が外国人選手。オリンピックを楽しみながら、改めて国際化、異文化交流についても考えたいものです。

概要

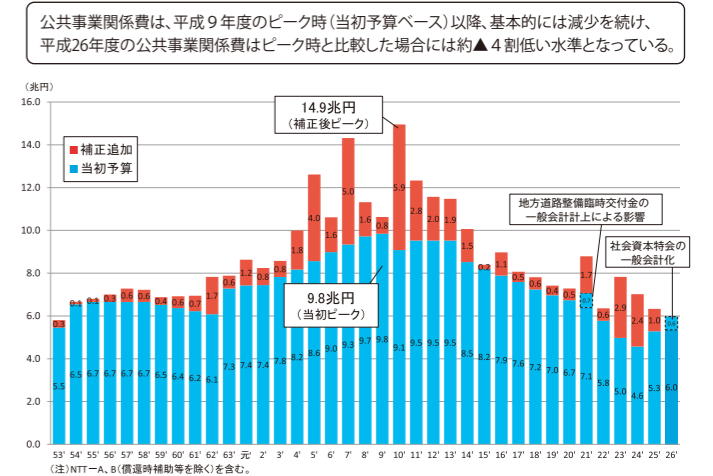
まず巻頭で「2015年バブルがやってくる」と特集されていました。バブルそのものの定義が明確ではありませんが、「億ション」など不動産の好調、株価の2万円越えなどを予測していました。背景には消費増税を2017年に先送りしたこと、2020年東京オリンピック誘致決定、異次元金融緩和などがあげられていました。さて現実はどうでしょう？10月までの実績では、株価も8月には2万円超えとなりましたが、中国など新興国の景気後退懸念から、その後は1万8000~9000円程度で推移しています(11月初時点)。2013年からいわゆる「黒田バズーカ」で、空前の国債買い取りによりマネーを市場にジャブジャブに供給してきた(マネタリーベースは2013年5月末の157兆から、2015年5月末では倍近い300兆円超え)異次元緩和の成果としては、期待外れと言わざるを得ない状況です。しかしこの尋常ではないマネー供給、さらにH23~25年で21.2兆に上る公共事業支出をして来たつければ「バブル発生」とその後の「崩壊」という形になって表れざるを得ないことは歴史が示していると思います。安倍総理や日銀は、バブル化のリスクを承知のうえでもアベノミクス第二弾を発表し、GDP600兆円(現在の20%増)と、一層の景気拡大を打ち出しています。よくも悪くも政策当局が、これほどの強い決心をもって資金供給と、景気拡大の意思を示している以上「2016年本当にバブルがやってくる。そしてバブルである以上崩壊は必然」と見ておく必要があるかもしれません。

成長率予測

「2015年総予測」では、9名の著名エコノミストが実質経済成長率を予測しています。最高1.6%から最低0.4%と開きのある予測でした。政府見通しも1.5%の成長予測でした。前述の様な景気浮揚政策への自信の表れだったのでしょうか。しかし結果は、4-6月期で△0.3%(年率△1.2%、7-9月期も△0.2%(年率△0.9%・予測)と逆にマイナスに陥ってしまっています。9名すべてのエコノミストが、「アベノミクス」に欺かれたと言ってもいいのではないでしょうか？確かに日銀はマネタリーベースを空前の規模に肥大化させましたが、需要がない以上、預金

となって日銀口座に積み上げられていくだけです。また政府の財政出動にしても、実は過去からみて安倍首相が言うほど思い切ったものではありませんでした。(図参照)この流れからみて、2016年の成長率も決して楽観を許さないと覚悟しなければなりません。

公共事業関係費の推移



賃金

中小企業経営に関係の深い国内需要に直結する「賃金」について「2015総予測」は「4年ぶりに前年比0.5%増加」と予測していました。春闘において異例と言える政府からの賃上げ要請、円安などによる輸出企業などの空前の好決算がありました。結果は7.8月でやっと前年同月比+0.2%増となりました。しかし「このままプラス基調が定着するかはまだ判断できない」と悲観的な見方です。これは物価の上昇に賃金が追いついていないということです。ただ賃金調査は全国33000社(全法人の1%程度)を対象にしていますが、その半数が30人以上の規模とされているだけで、実際には雇用の70%以上を受け入れている中小・小規模企業の賃金実態が反映されているのか不透明です。真に内需の回復・維持を目指すのであれば統計の基準から見直す必要があると言えます。そうでなければ賃金データと国内消費の正しい相関を見る事ができないからです。



海外ビジネス研究会 視察レポート

～世界に広がる理念型経営～

滋賀同友会・協HIP 滋賀の海外ビジネス研究会(代表小林清 近江化成工業社長)は、2015年8月24日(月)出発、8月30日(日)帰国で、第4回アジア視察研修会を開催しました。今回は、日本と大変にゆかりの深い国であるにもかかわらず、あまりにも知られていない国「モンゴル」に照準を合わせました。しかも、単に訪問するだけでは勉強にならないと、北京からモンゴル・ウランバートル間を国際列車、シベリア鉄道の支線を利用しました。研究会内に企画委員会を設置し、飛行機、列車、ホテルの予約、さらにウランバートルで我々を迎えていただくパートナーさんとの連絡など、すべてメンバーが役割分担をして行いました。

北京から国際列車でウランバートルへ

8月25日(火)、雑踏の北京中央駅改札を抜け、モスクワ行きシベリア鉄道「K23号」へ乗車。ここからウランバートルまで、28時間の旅が始まりました。

果てしなく続く平原に沈む、真っ赤な夕陽。旅番組の中の世界でしかないと思っていた、食堂車で味わう鉄道ディナー。列車の中で迎える国境越え。宝石箱をひっくり返したような、満天の星空。誰もが言葉

失った、地平線から昇る朝日の光景…。人生で二度とあるかないかの、異次元の時を過ごしました。

翌26日(水)に無事ウランバートル駅に到着。道行く車のほとんど(7割以上)が右側通行にもかかわらず、右ハンドルの日本の中古車。その内9割がトヨタ車で、中古のプリウスが目立ちました。初日の夜は、コーディネートしていただいたアマルサナー氏のご友人とウェルカムパーティー。シンクタンクで北東アジアの安全保障関連の仕事をしているドルジ氏、

取り組み方や接客などすべてに活かされると言うこと。世界に通じる理念型経営、私たちこそ見習わなければと思いました。

このあと、火力発電事業を担う「メガワット・グループ」、モンゴル羊100パーセントの絨

今回の旅(研修)もメンバーと現地の協力によって成功に終わる事が出来ました。

長い準備期間を経て一年で一番大事なイベントに向って仕事も体調も整えて出発し多くの事を経験して学んで全員が怪我もなく無事に帰国できた事を本当に嬉しく思っています。また天候にも恵まれ、またトラブルも大事が小事で済んだ事もあり幸運に感謝しています。

私自身モンゴルは2回目ですが、仕事も観光も魅力に溢れた国であるため、是非同友会での視察を提案しました。これ

全体を振り返って

(株)松本電機製作所 代表取締役 松本一志

にモンゴルの友人に協力頂き、また海外スペシャリストの幹部達の素晴らしい企画によって素晴らしい視察の旅になったのだと思います。

もし鉄道を使わなかったら、天候が悪かったら、大きなトラブルが発生したら、モンゴル語や中国語の出来る参加者が居なかったら…旅の印象は大きく違っていたと思います。偶然の産物のように見えますが、多くはメンバーの人脈や能力による物ではないでしょうか？

これからの研修も学びと経験をビジネスに生かせるようあとは我々個人の努力で頑張



最後に我々の安全に対して大変気遣って支えて頂いたモンゴルの友人 アマルサナー氏に感謝したいと思います。

モンゴル教育省にお勤めのガンバ氏など、お顔ぶれも様々な方と交流することが出来ました。

日本で学んだ理念型経営を実践

8月27日(水)は終日企業訪問。「エコバス・カンパニー」では、部品はロシアや韓国から、エンジンとシャーシーは中国から輸入して組み立てています。年間100台の組み立てが目標。従業員は100人で、1日三交代で24時間稼働。創業1年で20台をモンゴル交通局や民間バス会社へ納車。政府はバスの



輸入にかかる税金を高く設定していますので、エコバスからの購入が増えているそうです。続いて訪問したのはソーラーパネル製造の「サンコー・ソーラー」「サンコー・テック・モンゴリア」。どちらも埼玉県にある賛光精機(株)のグループ会社です。日本で研修を受けた現社長が、モンゴルで会社を興すミッションを受けて創業されました。製造機械は日本から運び込み、日本で研修を受けた人材を採用。平均年齢は約25歳。工場内には「経営理念」と「品質方針」が大きく掲げられ、朝礼で日本語とモンゴル語の両方で唱和され、従業員さんも良く意味を理解されているそうです。

工場見学を終えて私たちが建物から出た時には、社員さん全員が並んでお見送りをして下さいました。製造業で、これほどおもてなしの精神をもつて私たちを迎えていただき感動です。経営理念を浸透させるということは、仕事への

第4回アジア視察研修会 行程表

発着地・所在地	飛行機・鉄道時間	交通	備考
8月24日(月曜日) 関空発 北京着	CA928 13:50 16:25	飛行機	前泊 小林 大日. 前出. 辰野2. 岩崎 集合: 10:30 国際線フロアカウンター前
空港⇒ホテル移動 夕食 泊) 北京: インナー モンゴリア グランドホテル 王府井 No.2, Chong Wen Inner Street, 東城区, 100005 北京市, 中国		鉄道	お金管理: 廣瀬 前泊班と合流(ホテル)
8月25日(火曜日) ホテル⇒移動 北京発 終日移動 鉄道の旅にて 国際感覚を磨く! 泊) 車中泊	シベリア鉄道K23号 11:22	徒歩 鉄道	食事は食堂車にて 時間は出たとこ勝負
8月26日(水曜日) 移動 ウランバートル着 フラワーホテル着 夕食 現地メンバーとの夕食ミーティング 泊) UB: フラワーホテル Bayanzurkh Duureg, Zaluuchud Avenue-18, Ulaanbaatar, Mongolia	14:20 15:30 18:00	鉄道 専用車	Ecobus company ※石川、張、合流(ホテル) Altai Restrant of Flower Hotel 夕食・ミーティング ホテル手配
8月27日(木曜日) ウランバートル ビジネスツアー 企業視察 ① Ecobus Company ② Sanko Solar company ③ Megawatt company 昼食 Broadway 120 企業視察 ④ UB Carpet company ⑤ Nomin Construction company ホテル帰着 夕食 泊) UB: フラワーホテル	8:30 12:00 17:00 18:00	専用車	ホテル出発 Ecobus company 視察先コーディネート Amarsanaa 氏 Broadway 120 Mongolians restrant
8月28日(金曜日) テルレジへ移動 朝食・Hoursetrekking 終日、テルレジにて滞在 Activity	8:00 9:00 18:00	専用車	Ecobus company Hoursetrekking 昼食 Hoursetrekking

発着地・所在地	飛行機・鉄道時間	交通	備考
夕食	18:30		Hoursetrekking 夕食後、自由時間 ゲルの部屋割は現地にて Hoursetrekking
8月29日(土曜日) 泊) テレレジ: ゲル 朝食 チンギス・ハーン像 昼食 ローカルマーケット訪問 さよならパーティー Grand Khan Irish Pub 空港移動 空港到着 ウランバートル発 北京着	7:00 9:30 12:00 15:00 16:30 17:30 19:30 20:40		終日バスツアー Food Court of State Department Store Grand Khan Irish Pub 空港⇒ホテル移動 宿泊手配 宿泊⇒空港 解散
8月30日(日曜日) 泊) 北京 ホテル発 北京発 関空着	6:00 8:40 12:40		

参加者名簿

名前	会社名	役職
1 河村 剛	(株) ローカライズ	代表取締役
2 大日 陽一郎	山科精器 (株)	専務取締役
3 筒井 長徳	龍谷大学エクステンションセンター	コーディネーター
4 廣瀬 元行	滋賀県中小企業家同友会	専務理事
5 青柳 孝幸	(株) JPRO-SEED	代表取締役
6 小田柿 喜暢	大洋産業 (株)	代表取締役
7 谷口 洋	大洋産業 (株)	取締役
8 前出 博幸	前出産業 (株)	代表取締役
9 小林 清	近江化成工業 (株)	代表取締役
10 松本 和幸	(株) 松本電機製作所	代表取締役
11 松崎 悦子	(株) EGS	代表取締役
12 澤田 友宏	(株) クローバー	代表取締役
13 石川 朋之	(株) HONKI	代表取締役
14 張 琴	(株) HONKI	相談役
15 辰野 光彦	辰野 (株)	取締役
16 朝 克	辰野 (株)	上海経理
17 岩崎 健次郎	ソニー生命保険 (株)	ライフプランナー